

教師用指導案「東京 1964 大会のレガシー」

- 対象： 高校生
- 本時のねらい： 東京 1964 大会が当時の日本に残したものについて理解する。
- 準備物： [東京 2020 組織委員会ウェブサイト](#)、
[日本オリンピック委員会ホームページ](#)
- 適用可能な学習時間： 総合的な学習の時間、日本史、保健体育理論 等

時間	学習活動	指導上の留意点	参照資料等
導入 (5分)	1) 本時の見通しを持つ 【発問】東京 1964 大会は日本にどのような遺産（レガシー）を残したのかを考えさせる。	東京 1964 大会のレガシーを学ぶことで、東京 2020 大会のレガシーを理解させる。	
展開 (20分)	2) 有形のレガシーは都市インフラと競技インフラがある。 ・都市インフラ 新幹線や東京モノレールの開業、首都高や地下鉄の整備 ・競技インフラ 国立霞ヶ丘競技場の、代々木競技場や駒沢オリンピック公園。 無形レガシーは、スポーツ振興法を通して国や地方公共団体によるスポーツ振興、大会で示された平和の尊さ、マナー向上や美化運動など。	レガシーには有形と無形のものがあり、東京 1964 大会のレガシーについて両者のレガシーを学ぶ。 日本の高い技術力でインフラを整備し、オリンピック国民運動に示されたように、マナー向上や街の美化運動も行われた。こうしたものが、その後の日本の発展に寄与し、日本の社会を変えたことを理解させる。	オリンピック・パラリンピック学習読本 高等学校編 p.54-55、72-78
(15分)	3) 東京 1964 パラリンピックのレガシーは、障がいのある人の社会復帰にスポーツが有効であることを広く認識するきっかけになり、障がい者スポーツの競技会が開催されるようになったことである。これらは今日の日本にどのように受け継がれているかグループで話し合おう。	パラリンピックのレガシーについてグループごとに考える。	オリンピック・パラリンピック学習読本 高等学校編 p. 79
まとめ (10分)	考えをクラスで共有し、東京 1964 大会は日本の社会を大きく変えたことを理解する。	東京 2020 大会も日本の社会に大きな影響を及ぼすであろうことを考えさせる。	